

ONGAKU NO TOMO
音楽の友

2009.1特大号

Concert Reviews



内藤彰指揮東京ニューシティ管。ピアノは干野宜大

オーケストラ

東京ニューシティ管弦
楽団

今回の指揮は内藤彰、コンマスは
浜野考史。前半は干野宜大のピアノ

でリスト《死の舞踏》、後半はブルックナーの交響曲第5番。指揮者のブレ・トックでは、そのブルックナーの5番が自筆譜に基づく川崎高伸編集原初稿による演奏であることが紹介された。《死の舞踏》では干野が鍵盤狭しとばかり目の覚めるようなヴィルトゥオジティを繰り広げ、たたひとつの「怒りの日」がここまで使いまわし可能な素材であることを見せつけた。支える重低音もみごとさで、ブルックナーだが、もっとも新鮮だったのは明確な2分の2拍子で奏された第2楽章。演奏時間は13分ほどで、このテンポだと3連音のピイカートに従えたオーボエ主題がより鮮明に聴こえる。もちろん全楽章ノン・ヴィヴァルト。そのため、スケルツォ楽章のレントラー部分なども非常に軽快。フィナーレでは内燃していたエネルギーが宇宙的スケールで爆発した。11月17日・東京オペラシティア

●萩谷由喜子